

# 12月定例会 討論

討論は、表決の前に議題となっている案件に対し、賛成・反対の意見を表明することをいいます。

## 請願第5号 「国の制度として『20人程度学級』を展望した少人数学級の実現を要望する意見書」の提出を求める請願書

### 賛成

菅野 明 議員

コロナ禍で少人数学級を経験した子どもたちが、「いつもより勉強が分かった」と笑顔がこぼれた。今後感染症の再拡大時、今の40人学級では感染症予防が困難である。現在、学級の標準は法で決められており、国が法改正を行えば全国全ての自治体で少人数学級が実現できる。

学校では新しい時代の学びを支える環境整備が必要と全国知事会などが国に要請。萩生田文科大臣は11月、国会で「不退転の決意で臨む」と明言しており賛成する。

### 反対

佐藤 源市 議員

県は、学級編成基準策定方針に子供達や地域、学校状況踏まえ、学年の特性、児童生徒の発達段階に即した指導体制整備が出来るよう、市町村の判断で弾力的な学級編成を行うと明記されている。少人数学級では、未来への子供達の学力、体力、競争力の向上に将来社会へ課題が残ること。教職員増を求めているが、現在適切な配置であり、今後コロナ対策は的確、早急な対応が必要で、教職員には指導に一層、充実強化を図ることが望まれ、請願に反対する。

## 請願第6号 一定所得以上の75歳以上の医療費自己負担2割化中止を求める請願

### 賛成

斎藤 広二 議員

75歳以上の医療費窓口負担1割を2割にするもので370万人が対象。現役世代の負担軽減の為と言うが、軽減は1人年800円。高齢者の医療制度導入時、医療費の45%あった国費を35%に削り、現役世代に肩代わりさせ、高齢者自身に負担を転嫁した。介護保険料も当初の2倍となり、年金は6.4%減らされた。金の切れ目が命の切れ目になりかねない。先進国では医療費の窓口負担無料は当たり前。コロナで命と健康を守るべき時に負担増はやめるべき。

### 反対

平栗 征雄 議員

これからの厳しい社会に向かう若者の時代を考えれば、今後戦後の団塊世代による高齢者人口は増大するので、医療費に係る対策は将来を見据えて当然準備しておかなければならない。高齢者の医療費負担を1割に抑えるということは、将来にわたっての社会保障制度の持続性が損なわれることになる。世代間の公平性を考慮すれば、一定以上の収入がある人の2割の医療費自己負担は当然必要であり、今回の請願に対し反対する。

# 12月定例会賛否一覧

(これ以外の案件等は全会一致で可決されました。)

番号	件名	議決結果	市政刷新会議			真誠会			市政会			日本共産党 二本松市議団		令和創生の会		会派にない議員		賛成	反対			
			野地久夫	佐藤運喜	鈴木一弘	斎藤徹	平栗征雄	佐藤源市	平塚興志	佐久間好夫	佐藤和広	堀籠新一	安齋政保	熊田義春	斎藤広二	菅野明	平敏子			本多俊昭	小林均	石井馨
請願第5号	「国の制度として『20人程度学級』を展望した少人数学級の実現を要望する意見書」の提出を求める請願書	趣旨採択	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	10
請願第6号	一定所得以上の75歳以上の医療費自己負担2割化中止を求める請願	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	●	●	●	●	●	3	18

※○は賛成、●は反対、退は退席。 ※議長（本多勝実）は採決に加わっていません。